

**製品名: エフリン B3 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab10541**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	36kDa

**抗原情報**

遺伝子名	EFNB3
別名	EFNB3; EPLG8; LERK8; Ephrin-B3; EPH-related receptor transmembrane ligand ELK-L3; EPH-related receptor tyrosine kinase ligand 8; LERK-8
遺伝子 ID	1949.0
SwissProt ID	Q15768
免疫原	抗血清はヒト EFNB3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 221-270

**背景**

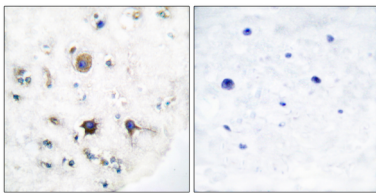
エフリン遺伝子ファミリーに属する EFNB3 は、脳の発達と維持において重要な役割を果たしています。さらに、EFNB3 の発現レベル

は、他の脳領域と比較して、いくつかの前脳領域で特に高かったことから、前脳機能において極めて重要な役割を果たしている可能性があります。EPH および EPH 関連受容体は、受容体タンパク質チロシンキナーゼの最大のサブファミリーを構成し、特に神経系における発達過程の媒介に関与していることが示唆されています。EPH 受容体は通常、単一のキナーゼドメインと、システインリッチドメインおよび2つのフィブロネクチンタイプ III リピートを含む細胞外領域を有します。エフリンリガンドおよび受容体は、Eph 命名委員会 (1997 年) によって命名されています。エフリンは、構造と配列関係に基づき、グリコシルホスファチジルイノシトール結合によって膜に固定されたエフリン A (EFNA) クラスに分類されます。機能: 前脳機能において極めて重要な役割を果たす可能性があります。in vitro において、交連軸索 / 成長円錐に結合し、その崩壊を誘導します。縦方向に突出する軸索の方向を拘束する役割を果たす可能性があります。類似性: エフリンファミリーに属します。サブユニット: GRIP1 および GRIP2 と相互作用します。ニパウイルス G タンパク質に結合します。組織特異性: 脳で高発現し、胚の底板、屋根板、および後脳節で発現します。、

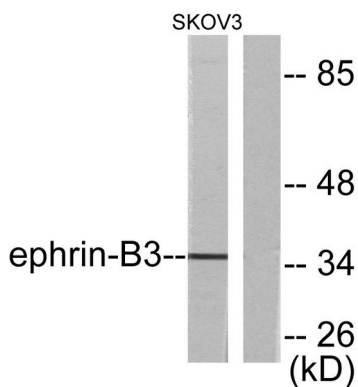
## 研究分野

軸索ガイダンス;

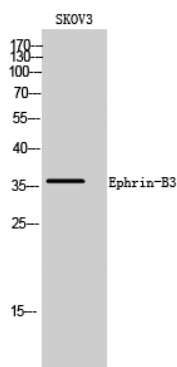
## 画像データ



EFNB3 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



EFNB3 抗体を用いた SKOV3 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



エフリン B3 ポリクローナル抗体を用いた SKOV3 細胞のウェスタンブロット解析